

ポスター報告 12

原 順子 四天王寺大学

松岡 克尚 関西学院大学人間福祉学部

宮崎 康支 関西学院大学大学院総合政策研究科

横須賀 俊司 県立広島大学

#報告題目 障害学における「インペアメント文化」の位置：大学での合理的配慮マニュアルを通して

#報告キーワード インペアメント文化 合理的配慮 ディスアビリティの再注目

#報告要旨

1. 研究目的

本報告は、第 15 回大会で行った報告「障害学生のインペアメント文化と『ディスアビリティの再注目』との関連について」の続報になる。前回の報告内容を踏まえ、更に合理的配慮提供の中に「インペアメント文化」の視点を取り入れたマニュアルを報告し、同時にそれが障害学生支援における「ディスアビリティの再注目」にいかなる貢献を果たし得るか、及びインペアメント文化と健常者文化との文化間摩擦について障害学上の意義を考察する。

2. 研究の視点および方法

インペアメントのある身体が紡ぎ出した生活様式・傾向を「インペアメント文化」と称している。それは、インペアメントのある者の「生きる戦略」や「経験知」を構成している（松岡 2018）。一方、インペアメントを持たない身体による生活様式を「健常者文化」と呼んでいる。

インペアメント文化を抽出するために、大学の障害学生支援部門からの紹介、または本研究チームメンバーが直接依頼した 6 大学 15 名の障害学生にインタビューを実施した。それ

ぞれ同意を得て半構造化面接を実施し、さらに同意を得てICレコーダーで録音の上で逐語録を作成し、そこからインペアメント文化に該当する内容から概念名を生成し、アーカイブ化を試みた（ここまで前回で報告済）。

次にアーカイブを基に、インペアメント文化の諸相について障害学生支援者の認知促進を意図してガイドラインを作成した。それに当たっては、大学で障害学生支援に携わっている支援者から意見を求め、それらを反映させた上でガイドラインを完成させた。

次に、完成させたガイドラインに掲載されているインペアメント文化の諸相を基にして、（１）健常者文化との摩擦解消のための合理的配慮提供という観点、及び（２）合理的配慮提供にあたっての障害学生理解のために一助となる学生の環境適応という視点から、それぞれ支援者が何をすべきかをまとめたマニュアルを作成した。

3. 倫理的配慮

関西学院大学の「人を対象とする行動学系研究倫理審査委員会」（2017-08）と四天王寺大学の研究倫理審査（29 倫第 9 号）を受けて、それぞれ承認を得た。また一般社団法人日本社会福祉学会研究倫理規程を遵守し、研究を行った。

4. 研究結果

マニュアルは箇条書き形式で、ガイドラインに示した 27 諸相に対応して作成した。例えば「安心して対処できることを優先する」という相については、「『験担ぎ』のようにいつも同じパターンをとる傾向を批判したり、止めさせたりしない」と記載した。

合理的配慮提供に当たっては学生の障害状況を適切に把握することが求められており、当然、そこにはインペアメントに関する情報が含まれることになるが、ただそれだけであれば医学モデルに傾斜してしまう。社会モデルに基づいて社会的障壁の除去が謳われながら、結果的に医学モデルに準拠したアプローチを採用してしまうことを、星加（2018）は「インペアメントの再注目」と呼んでいる。

マニュアルでは「インペアメントの再注目」を「逆手にとって」インペアメントの文化的側面を取り上げ、「健常者文化」との摩擦もまた社会的障壁になり得るという認識を提示した。加えて「インペアメントの再注目」を「ディスアビリティの再注目」へと転換できる可能性を示し得た。

5. 考察

「建設的対話」を通して学生理解の深化が求められているが、この点においても当該学生の「生の戦略」であるインペアメント文化を理解していくことは重要になってくる。

ただ、障害学では M.オリバーらが言うように「基本線として個人の身体的不能や機能の制約から離れること」（Oliver & Sapey 2006=2010:83）という基本原則があるとされる中で、本報告でいうインペアメント文化という身体に立脚した概念を障害学の中に位置付けることについては議論の余地があるだろう。本報告では特にこの点について討論ができればと考える。

本研究は科研費（基盤研究（C）16K04224 研究代表者：松岡克尚）の助成を受けている。

【文献】

星加良司（2018）「合理的配慮と医学モデルの影」障害学研究、13: 125-138.

松岡克尚（2018）「インペアメント文化のとらえ方とその可視化：障害文化、障害者文化との比較を通して」Human Welfare、10(1): 79-91.

Oliver.M.& Sapey,B.（2006）Social Work with Disabled People, 3rd edition, Palgrave Macmillan. (=2010、野中猛監訳・河口尚子訳『障害学にもとづくソーシャルワーカー障害の社会モデル』金剛出版）.

